



Via Latina 22

2025 年 6 月 343 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

インド地区での初誓願式.....	1
シャミナード国際神学校での助祭叙階式と選任式.....	2
パブロ・ランボー師とデニス・バウティスタ士のオーストリア・ドイツ地区訪問.....	4
総長と財務局長によるコートジボアール従属地区への視察訪問.....	6
マリアニスト家族世界評議会（WCMF）とフランスの全国家族評議会との会議.....	8
Raymond Halter: 霊的戦いにおける希望.....	9
汚れなきマリア修道会（FMI）の創立記念日.....	11
2025 年 10 月 8~12, 奉献生活のジュビリー ローマ.....	11

インド地区での初誓願式

2025 年 5 月 12 日、インドのマリアニスト家族は大きな喜びと神への感謝を持って Wilfred Kujur 士と Rahul Meriya 士の初誓願式をニルマル・ディープにある私たちの修練院にて執り行いました。誓願式はインドのマリアニスト地区全体にとって非常に霊的で共同体意識に満ちたひと時でした。

聖体祭儀は副地区長、Ignase Arulappen 師が司式し、彼はまた、マリアニストの生き方における修道誓願のもつ美しさと要求について強調しながら、福音的勧告に焦点をあてた意味深い説教を行いました。ミサ聖祭は幾人かのマリアニスト司祭と地域の司祭たちの共同司式で行われ、この行事の荘厳さと共同体精神を高めました。

説教の後。初誓願式が行われました。修練院長、Jinu Muthukattil 師が誓願候補者を出席者に紹介し、誓願者の準備ができていることを確認しました。地区長、Prakash Kujur 士がマリア会を代表して正式に彼らの誓願を受け入れました。



左より：Rahul 士（中央左）と Wilfred 士（中央右）
マリア会員と両士の家族の皆さんと共に

この式典は、近くにあるマリアニスト共同体の修道者と修道女、またこの二人の修道士の激励のために一緒に来た信徒マリアニスト共同体メンバーの出席に恵まれました。Rahul 士と Wilfred 士の家族メンバーも出席し、この誓願式を更に個性的で楽しいものにしました。

全体で約 170 名の人たちがこの式典に参加しました。この日に体験された喜び、尊敬、そして一体性は、マリアニスト修道生活の持つ活力と、インドに於ける私たちの養成努力の継続的な実りへの強い証しとなりました。

マリアニスト召命におけるこの最初のステップを勇気をもって歩み出したこの 2 名の若者を頂いたことに対して私たちは神に感謝します。彼らの誓約が他の人たちに影響を与えますように、そして彼らが忠実さ、喜び、マリアニスト家族と教会への奉仕に成長し続けますように。

シャミナード国際神学校での叙階式と選任式

5 月の 1 ヶ月間に、シャミナード国際神学校の神学生たちは、2 つの重要な式典：助祭叙階式および朗読奉仕者と祭壇奉仕者の選任式を経験しました。

助祭叙階式



5月10日土曜日午後、Via Latina 22の聖堂にて、コートジボアール従属地区のハイチ出身 Claudel Noël 士の助祭叙階式が執り行われました。叙階式は典礼秘跡省の次官、Aurelio García 司教によって司式されました。

フランス地区長、Jean-Marie Leclerc 士、コートジボアール従属地区長、Noël Dominique Kouao Akobé 師、また Claudel の家族と友人メンバーが式典に参加するため海外から到着しました。ローマのマリアニスト家族の多くのメンバー、修道士、修道女と一般信徒たち、また Claudel の多くの友人同僚が参加しました。ハイチとコートジボアールのローマ聖庁外交使節の代表者たちも出席していました。素晴らしい叙階式を体験し、神学校の庭では楽しい共同体の雰囲気の時間が分かち合われました。

私たちは Claudel を召し出してくださった神に感謝し、また私たちは彼の寛容さ、神学校で体験した養成プロセスへの彼の献身、兄弟たち、および彼らと共に全教会に奉仕したいという彼の切望に対して Claudel に感謝します。私たちは、叙階式で受け取った賜物が彼の生涯において豊かな実を結びますよう主に祈ります。



Claudel 士（左より3人目）とコートジボアール従属地区出身の神学校共同体のメンバーとフランス地区の地区長（左より4人目）とコートジボアールの従属地区地区長（右より2人目）

奉仕職選任式

5月23日金曜日、Via Latina 22の2つの共同体が出席したミサの祭儀の中で、3名の神学生が朗読奉仕者として、そして7名が祭壇奉仕者として選任されました。

朗読奉仕者：Roméo Angba（コートジボアール）、Nicolas Assogba（トーゴ）、
そして Henri Baragou（トーゴ）

祭壇奉仕者：Yves Agbadou（コートジボアール）、Patrick Cahill（メリバ）、
Christophe Mbonde（コンゴ）、Epidius Ngosa（東アフリカ）、
Gilbert Okade（東アフリカ）、Daniel Orellana（チリー）、
そして Raoul Rouamba（コートジボアール）

朗読奉仕と祭壇奉仕は信徒の奉仕職であり、この奉仕職はみ言葉との関係を深めるのを助けるために神学校の養成課程に導入され、日々の生活の中で受けとられ、実践され、ミサ聖祭と共に祝われ、生きられるものです。

私たちは彼らの養成課程において祈りをもって同伴します。



奉仕者たちと神学校校長、副校長と共同式司祭たち

パブロ・ランボー師とデニス・バウティスタ士のオーストリア・ドイツ地区訪問

一つの地区、二つの国、三つのオーストリアの都市ートラグヴァイン、フライシュタット、そしてウィーンーそこには9名の修道士たちが住んでいます、その中の一人、Gottfried Peyr 士は 2025 年 5 月 12 日に帰天しました。

4つの基本的任務があります：3つのマリアニスト学校ーフライシュタットの Marianum；ウィーンの Albertus Magnus；そしてドイツ、フルダの Marianumーそして黙想の家、ビルデンスハウス・グライジングホフ。この訪問時の祝別式で、新規に作られた記念プレートを捧げて福者 Jacob Gapp の栄誉を称えました。これらは 4 月 28 日から 5 月 15 日にかけてオーストリア・ドイツ地区訪問 18 日間で数少ないハイライトでした。

この訪問はビルデンスハウス グライジングホーフでのヨーロッパマリア会行政単位評議員会の3日間の会議で始まりました。評議員会の中心議題：5つの行政単位：オーストリア・ドイツ、フランス、イタリア、スペインそしてスイスの将来の共有された運営モデルの識別。



2025年5月1日（木）、オーストリアのトラグヴァイン、グライジングホーフのビルドゥングスハウスにある福者ヤコブ・ガップの記念石に、ヨーロッパ・マリアニスト会議のそれぞれの行政単位の評議員会が集まり、会議を締めくくった。なお、記念石はガップ師が殉教したベルリンに面している。

これに続く日程の中で、パブロとデニスは学校と共同体を訪れ、食事と祈りを共にし、そして会員たち、教師、また信徒マリアニストと会いました。ドイツのフルダで、彼らは Marianum の卒業生である市長の Heiko Wingenfeld 氏から歓迎され、Michael Gerber 司教に会いました。

この地区でのマリアニストの存在は 1851 年にさかのぼります。オーストリア管区は 1906 年に創設され、1985 年にオーストリア・ドイツ管区になり、そして 1998 年に地区になりました。



パブロ師、デニス士、ハンス・エイデンベルガー師（司教の左）とマリアヌム・フルダ校の教師、管理者一行を歓迎するドイツ・フルダのミハエル・ゲルバー司教（中央）

オーストリアはたった 8 名の会員で、日々の誓願者の現存は 3 つの学校で減少してきました。それでもマリアニスト宣教活動は、会員たちの証しに励まされた奉獻した信徒マリアニストのリーダーや先生方によって前進し、保たれています。

ヨーロッパの行政単位がこの地区の修道者と宣教活動に必要なものを支援する方法を識別している時にあたり、この地区と全ヨーロッパのマリアニスト家族の将来のために祈りましょう。



2025 年 5 月 7 日(水)、オーストリアのウィーンにあるアルベルトウス・マグヌス学校での特別な式典の間に、福者ヤコブ・ガップ師とハインリヒ・マイヤー師(第二次世界大戦中に処刑されたオーストリアの司祭)を讃える記念プレートが、パブロ・ランボー師とヘルムート・ブランセッター師によって贈られ、祝福された。

総長と財務局長によるコートジボアール従属地区への視察訪問

2025 年 4 月 24 日から 5 月 9 日にかけて、総長と財務局長がコートジボアール従属地区を視察訪問しました。この地区は現在フランス地区の管轄下に在ります。この従属地区は 36 名の修道者を有しており、そのうち 9 名は従属地区の外で生活し活動しています。今年、従属地区は 2 年目の 2 名の修練者を有しています。宣教活動は次の 2 つの活動範囲で上手く分けて定められ、バランスを取られています：教育事業と全ての恵みの母なるアフリカの聖母マリア巡礼聖堂を含む霊性センター、アカコモエクロの大きなプランテーション農場を伴う農業司牧と、アビジャンの修練院と学生修道院の施設でのアフリカフランス語圏の修練者と学生修道者の養成です。

この 2 週間の訪問の間に、総長と財務局長は従属地区を構成する 7 つ全ての共同体を訪れて修道士たちと話し合いました。この訪問は、2025 年 4 月 25 日から 27 日にシャミナード村で開催された従属地区総会とたまたま同時期に行われました。この従属地区総会の主な目的は、総会文書“いのちの約束”を分析し、その要請を従属地区の状況に適合させるために、

マリア会の第36回総会の決議事項を適応させることでした。



アンドレ師とジェローム士 マリア巡礼堂と司牧委員会とマリア会員と共に

コートジボアールには、マリアニスト家族のメンバーが多くいます。この従属地区には四つの枝が全てそろっています。二人の訪問者は CLM/MLC 全国事務所とアリアンスマリアル全国事務所のそれぞれメンバーと話し合いました。二人はまたアビジャンの FMI 共同体を訪問しました。コートジボアールではマリアニスト家族の4つの枝の間に良好な協力関係がみられます。



従属地区長評議員会の数名のメンバーとの会議

私たちはこの訪問を企画準備された従属地区長と彼の評議員会に感謝します。また従属地区の全ての会員にその歓迎と話し合いのときのオープンな姿勢について感謝を伝えたいと思います。コートジボアール従属地区はダイナミックであり、多くの可能性を持っています。同時に、この従属地区はその状況から来る多くの課題に直面しています。とはいえ、励ますための多くの理由があります。コートジボアールの会員たちと彼らの任務のため祈りましょう。

マリアニスト家族世界評議会（WCMF）と フランス全国家族評議会との会議

前回 2023 年 11 月の会議の時、WCMF は、異なる国々のマリアニスト家族の評議会に対して、各々の家族評議会とのオンライン会議を企画することを提案しました。これには 2 つの目的があり、1 つはお互いのメンバーと知り合うこと、2 つ目は相互の意思疎通と協力の絆を強めることです。

5 月 17 日、WCMF の幾人かのメンバーとフランスの全国評議会メンバーがオンラインで会合を持ちました。開会の短い祈りの後、フランスの全国評議会は自己紹介を行い、また評議会の機能状況、その活動のいくつかの成功と成果、また遭遇することが見込まれる困難さと改善したい面などに関する情報を WCMF と分かち合っている彼らのメンバーを紹介しました。主な計画として、フランスの全国評議会は、各枝が自分たちの固有な目標を持ちながらも、同時に各枝の間で共分ち合うことができるマリアニスト家族の共通の宣教計画の作成に努めています。



会議参加者

一連の問題明確化の後、パブロ・ランボー師は WCMF の機能と幾つかの計画を説明しました。WCMF の計画は、今のところ、各国の全国評議会と WCMF 間の意思疎通を図り、前進させるための共通の枠組みを作ることに焦点を当てています。

参加者による最終的評価で会議は締めくくられました。この評価は、共通認識、顔見知り、両評議会の生活と宣教活動の分かち合い、家族のような一体感を強めることなどに関する前向きな面を強調しました。

私たちは他の国の全国評議会に同様の会議を計画し組織するため、WCMF の事務局とコンタクトを取るよう勧めます：wcmf-sec@marianist.org

Raymond Halter : 靈的戦いにおける希望

Raymond Halter 神父は時々自分について次のような表現を聞きました：“彼は癒しのカリスマを持っている”。彼は“いいえ、私は信仰のカリスマを持っています”、と言いながら、いつも笑っていました。

希望の支えである、この信仰。私たちは彼の生涯を次のように要約出来ると思います：“その信仰を通して、希望において、また愛において、自分自身を放棄しているので、彼は聖人です”。

Halter 神父は、関係する人たちが癒やしを信じないとき、自分が公表する癒しを苦しみながら自分の体において体験しました：“私は移動する病院のようです”。そして悪魔に対する彼の戦いは知られざる話として留まります：“なぜ私が白髪なのか、皆さんは解るでしょう、、”

このことは、非常に若いときから外面的健康の試練と多くの内面的苦しみと対峙してきた長い学びの曲線を要求しました。かれはほとんど目が見えなくなりました。それから彼はアフリカでの宣教活動中、穴に落ちて怪我をして、杖をついて歩くことを余儀なくされました。彼は、心臓と血管の合併症とそれらの結果として、73才で死去しました。

彼の発言は今日でもなお今日的な意味を帯びています。

“イエスは、その死を通して、あらゆる形の死を克服されました。その死を通して、その復活を通して、彼は私たちに解放をもたらしに来られましたし、また私たちの限界の中に私たちに会いに来られます。これらの限界を知り、それらを告発しながらも、私はこの分野で、またこれら各々の分野で、イエス キリストの勝利によって私に与えられた希望を受け入れなければなりません”。

“イエスは本当に復活されました。そして私たちの信仰は、私たちのためだけではなく、私たちの同時代の全ての人たちのための希望なのです”。

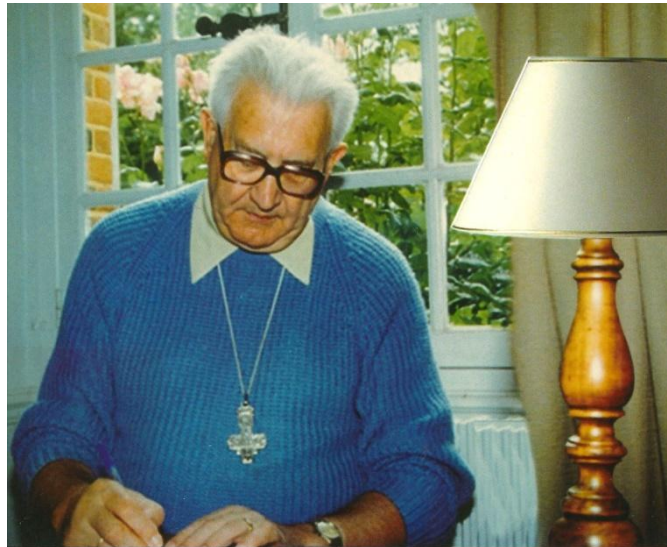
“私たちが希望を取り戻して再び生き始め、主のために創造し、行動するようにしてくれるのは、いくつかの状況に直面し、いくつかの大変苦しい罪に直面して、大変難しい時に力づけてくれる贈り物です、、、。これは、この力づけてくれる贈り物を通して、立ち上がり、再出発するように、打ちのめされた表情で立ち去るのではなく、希望のうちに喜びを持って再出発するようにと、聖霊がお与えになる能力なのです”。

“さて、希望を持っているのですから、キリスト者もまた物事の変化をいち早く察知する人

です”！

“そして私たちは今日の世界にあってどれほどこの希望の証人でもあるのでしょうか”。

イエスは言われました：“私は聖なる者、義しい人たちのために来たものではありません”。“私は罪びとたちのために来ました、私は健康な人のためではなく、病人のために来ました。人は私たちの現実の生活の中で、非常に具体的に希望を理解します”。



Raymond Halter 師

この最後の表現は教皇フランシスによって 2025 年聖年の彼の教書で何度も繰り返されています：“神の母は、希望の最も偉大な証し人です。この方を見ると、希望は中身の無い楽観主義ではなく、生の現実の中の恵みの賜物であることが分かります”(Spes non Confundit, 24)。

それは、Raymond が祈り求め、示した神の母：“慈しみの母”でした。

“希望のヘルメット”：Halter 神父は幾度かこの表現に戻りますが、この表現は重要なものです：私たちのキリスト教的な生活、霊的戦いにおける希望だからです。私たちは自分の殻に閉じこもって生きていません。自分に閉じこもり、自分自身でくよくよ考え悩んでいては、私たちは決してキリストを理解することはないでしょう。キリストは将来に向かって私たちに手を差し伸べています。私たちが霊的戦いに遭遇するとき、私たちは既にキリストの勝利が確かであると確信します。キリストの復活を信じることが重要です。

もし私たちがキリストは復活したと確信し、彼の勝利を確信するならば、私たちはひたすら霊的戦いを実践することができます。キリストが死と罪と悪を克服されたそのご受難以来、悪へ続く道を除いて、いかなる道も私たちを閉ざすことはできません。ですから、私たちはなぜ聖パウロがコロサイ人への書簡で次のように言っているのか理解します：“たゆまず祈

りなさい。感謝のうちに、目を覚まして祈りなさい。”（コロサイ 4・2）。もし私たちがイエスの勝利のうちに固い信仰をもって祈るなら、私たちは個人的、共同体的祈りのうちに、ひたすら耐えることができます。これが祈りの中に耐えるための条件です。

忍耐をもって祈る人は、いつか勝利を体験することは確かです。

祈るのを止めないようにしましょう、なぜなら、神は私たちの信仰が強められ、私たちの信頼が成長することがいかに重要であるかを知っておられるので、神は決して私たちの祈りに対して早すぎる応答はなさらないからです。そして私たちはこのような時に、神が耳を傾けて下さっていないと、時々私たちは感じるのです。ですが、確かに神は聞いておられます。そしてどれほど、見えないかたちで、神は信頼を成長させ、信仰を成長させ、愛を成長させるために、私たちの心に働き掛けておられることでしょうか。そして時が来れば、私たちに答えを与えて下さいます。

しかし、私たちが答を頂くとき、それは私たちがいただく答であるだけでなく、私たちを変容させる聖霊の全ての働きでもあるのです。

汚れなきマリア修道会（FMI）の創立記念日



私たちは皆さんと、5月25日に式典を行った FMI 創立 209 年記念にあたり、総長、シスター Susanna Kim によって出された回章第 8 号を皆さんと分かち合います。回章を読むには次をクリックしてください：

[回章 第 8 号](#)

2025 年 10 月 8~12, 奉獻生活のジュビリー ローマ

奉獻生活省と福音宣教省は、男女全ての奉獻生活者を 2025 年 10 月 8-12 の聖年祭の間の特別な式典、奉獻者の記念式に出席するよう招いています。



これに参加を望むマリア会員の皆さんは、自分たちで旅行の日程をつくり、費用を自己負担するよう要請されています。Via Latina 22 では限られた数の宿泊が可能です。予約するには、総書記、gensecsm@smcuria.it へ。公式 webpage と登録形式は下記の通りです。登録の期限は 2025 年 8 月 3 日です。

注意：総長評議員会は参加出来ません、なぜなら彼らは 10 月中は、東アフリカ地区へ教会

法上の視察訪問に出かけるからです。

公式 webpage と登録：[Jubilee of Consecrated Life](#)



福者シャミナード師へのノベナ

私たちは 13 才の少女 Sara Sofia の病気回復のため福者 Guillaume Joseph Chaminade へのノベナの祈りをお願いします。彼女は大変進行したステージにある遺伝性機能障害を伴った神経障害で苦しんでいます。Sara Sofia はコロンビア、ジラルドのマリアニスト Espiritu Santo 中学校の生徒です。この意向はコロンビアーエクアドール特別地区長、Jesús Antonio Obando 師によって要請されました。

最近の総本部通信

- 訃報：13 号

総本部日程

- 6 月 4 日－14 日：教育局長デニス・バウティスタ士がサンアントニオ（米国）を訪問し、メキシコでの初誓願式に出席
- 6 月 30 日－7 月 2 日：総長評議員会がサラゴサでのマリアニスト教育会議に出席